

LGBTQ+とは？

L レズビアン
女性の同性愛者

G ゲイ
男性の同性愛者

B バイセクシュアル
両性愛者

T トランスジェンダー
出生時に割り当てられた性と自認する性が異なる

Q クエスチョニング
好きになる性や自認する性が特定の枠に当てはまらない

+ プラス 上記以外のさまざまな性

トランスジェンダーを巡る主な出来事

- 2001年 ▶ ドラマ「3年B組金八先生」に性同一性障害の生徒登場
- 04年 ▶ 性同一性障害特例法が施行、戸籍上の性別変更が可能に
- 14年 ▶ 世界保健機関（WHO）などが不妊手術の強要を人権侵害と非難する声明
- 18年 ▶ 性別適合手術が公的医療保険の対象に
- 19年 ▶ 最高裁第2小法廷が特例法の生殖不能要件を「現時点では合憲」と判断
- 20年 ▶ 戸籍上の性別を変更した人が1万人突破
- 23年 ▶ 最高裁大法廷が生殖不能要件を違憲と判断

戸籍上の性別を書き換えるには...

「性同一性障害特例法」の5要件を満たす必要

1 18歳以上

2 現在結婚していない

3 未成年の子がいない

4 生殖不能要件
＝生殖機能がない5 外観要件
＝変更後の性器に似た外観がある2023年10月
最高裁大法廷が
「違憲で無効」と判断！

グラフィック・国友健州

性の多様性への社会の理解が少しずつ広がる中、トランスジェンダーを取り巻く状況も動いています。法律は「自分の望む性」を生きる権利を認める道へと進んでいるよう。ただ、課題はまだ多いのが実情です。専門家への取材などを基にQ&A方式でまとめました。

（田中美千子）

トランスジェンダー

性別変更の道 広がる

Q そもそもトランスジェンダーとは。

A 出生時の体の特徴から割り当てられた性別と、「自分は男だ」「女だ」という感覚（性自認）が一致しない状態の人を指します。性的少数者を総称する「LGBTQ+」という言葉がありますが、Tはトランスジェンダーの頭文字です。

Lはレズビアン（女性の同性愛者）、Gはゲイ（男性の同性愛者）、Bはバイセクシュアル（両性愛者）で、いずれも好きになる性（性的指向）に関する少数者です。Qはクエスチョニング。性自認や性的指向が定まっていない状態の人たちに当たります。

Q 性別に違和感があれば、戸籍上の性別を変えられるのですか。

A 日本では2004年、戸籍の性別を変更できるよう定めた「性同一性障害特例法」が施行されました。変更には①18歳以上②現在結婚していない③未成年の子とがいない④生殖機能を失っている（生殖不能要件）⑤変える性別の性器に似た外観を備えている（外観要件）の5要件を満たす必要があります。

④と⑤は「手術要件」とも呼ばれ、クリアするには④は卵巣や子宮、精巣の摘出、⑤は陰茎切除などが必要とされてきました。この法に基づき、22年までに性別を変更した人は約1万2千人

Q トランスジェンダーは誰もが手術を受けているのでしょうか。

A 体への負担が大きく、高額な手術です。断念する人も、望まない人もいます。声や体つきを望む性別の特徴に近づけるため、性ホルモンの注射だけにとどめる人もいます。そもそも悩みを抱え込み、医療につながっていない人も多くはいます。

法的にも、必ずしも手術をする必要がなくなる方向です。最高裁大法廷が昨年10月、生殖不能要件は違憲、無効

Q 他に課題はありますか。

A 岡山大学術研究院の中塚幹也教授（生殖医学）は「医学的、経済的な理由で手術を諦めざるを得ない人もいます。手術しなくても性別を変えられる選択肢ができたのは前進だ」と最高裁の判断を評します。一方、体の違和感を解消するため手術を望む人も依然として多いと、実情を明かします。

中塚教授が理事長を務める「日本G I（性別不合学会）」の認定を受けた医療施設は、国内8カ所しかありません。希望者が安全に手術を受けやすい体制の拡充が求められています。

また性別適合手術は18年に公的医療保険の適用となったものの、使える人が少ないといわれています。日本では保険が使える診療と、保険外の診療の併用が認められています。多くの人は手術に至るまでに自由診療のホルモン療法を受けており、高額な手術も保険の適用外になってしまつたのです。学会はホルモン療法を保険適用とするよう訴えています。

生殖不能要件は違憲／医療体制や保険課題山積

人に上ります。国際社会からは手術の強要は人権侵害だと批判されてきました。

Q 性別に違和感があれば、戸籍上の性別を変えられるのですか。

A 日本では2004年、戸籍の性別を変更できるよう定めた「性同一性障害特例法」が施行されました。変更には①18歳以上②現在結婚していない③未成年の子とがいない④生殖機能を失っている（生殖不能要件）⑤変える性別の性器に似た外観を備えている（外観要件）の5要件を満たす必要があります。

わが子が望む人生 応援していく

幼い頃の理吉さんの写真を見つめる女性
(撮影・高橋洋史)

私が
あなた
を
とき

自分の性を生きる

「あれ？」と思い始めたのは少し後。生理が始まってもおかしくないはずなのに、何も言っていない。相変わらず、制服以外はズボン一辺倒。かわいいう着も嫌がった。春先には「今日だけだから」と学校を休んだ。いつも健康診断の日と重なっていた。

時折、いつもの笑顔が消える。心が不安定なのか、隣に寝たがる夜もあった。高校時代、腕の傷痕を見つけた時はぞっとした。「自傷行為は許さない」と諭したが、訳を聞いてもはぐらかされた。だからある時、意を決して水を向けたのだ。「ねえ、本当は男の子になりたいんじゃないの？」。返ってきたのは「違うよ」の一言だった。もう、何も聞けなかった。

あれは9年前の夏。更新したばかりの運転免許証を手には、わが子は突き抜けたような笑顔を見せた。廿日市の女性(67)は、喜びいっばいのその姿が今も忘れられない。名前の欄は「川本絵理」から「川本理吉」に書き換えられていた。いろんな思いが込み上げた。ああ、この子はこんなにも変わらなかつたんだ。新しい生き方を応援したのは、間違いないやなかつた。

理吉さん(33)は長男。長女に次ぐ第3子。25歳の時に性別適合手術を受けるまでは、一家の末娘だった。幼い頃からやんちゃで、男の子と外で遊ぶのが大好き。ズボンばかりはきたが

「本当は男の子になりたいんじゃない？」 葛藤超えて



理吉さん(奥左)、その妻エリさん(同右)との暮らしは笑い絶えない

「私、どこかでほっとしたのかもしれない」と女性はある。女らしい部分を捨ててしまおう自分も好きだもの。きつと気のせいよ、と。

地元の大学に通っていた4年間はむしろ、就職のことが気になった。「公務員になる」と言うが、バイトさなまの毎日。理由を知らされたのは卒業後だった。ある朝、枕元に手紙を見つけた。「社会に出る前に男になります」。手術費用をためていたらしい。

「母親が味方にならないでどうする？」。自らに言い聞かせ、真つ先に長男、長女に電話した。どうしたって親は先に逝く。あの子を守ってやってほしい。話しながら、なにも自分自身も動揺してはいた。話しながら泣いてきた。「あやふやに産んじやった。苦しみで気付いてやれなかつた」。すると、いつもは無口な長男が言ってくれた。「母

んのせいじゃない。大丈夫。僕らがいるから」。ただ、しばらくは乳房や子宮をなくす手術に賛同していいのかわからない。だから通院には付き添った。待合室では、わが子と同じ悩みを持つ人を多く見た。医師からもさまざまな話を聞いた。生きづらさを誰にも分かってもらえないまま、自死してしまう人もいたらしい。「次第に心は固まりました」。

夫は最後まで決った。改名後も「絵理」と呼んだのは、彼なりの意地だったのか。3年前にがんて入院し、わずか3カ月後に逝ってしまつた。傷心を癒やしてくれたのも理吉さんだ。夫の死から1年後、結婚すると聞いた時は本当にうれしかった。

カミングアウトから10年。「この子の母親で良かった」と女性はある。思えば、子どもの頃から男の悪口を決して言わなかつた。きつと、否定されるつらさを誰より知っているから。優しいだけじゃない。望む人生をつかみ取る強さも見せてくれた。「いろいろあったけれど、家族の絆も強くしてくれて気がします」。

昨年、理吉さん夫妻と暮らした。わが子の第二の人生を、近くで見守る幸せ。今、かみしめる。
(編集委員・田中美千子)

息子から母へ

苦悩する息子の視線から母への想いを描いた「side-A」はこちら→



性の在り方は多様 正しく知って

岡山大学術研究院の中塚教授



体と心の性が一致しない状態の人は「トランスジェンダー」と呼ばれ、生きづらさを感じる場合が多いとされます。周りはどう対応すればいいのでしょうか。産婦人科医として当事者を支援している岡山大学術研究院の中塚幹也教授(生殖医学)に聞きました。

トランスジェンダーの多くは、体の性への違和感を幼い頃から自覚しています。二次性徴が始まり、自分の体が望む性とは反対の方向に変わっていく時期は当然、苦痛が増します。それでもなお「親に申し訳ない」「拒絶されるのが怖い」と悩み

を抱え込みがちです。

私も診療に携わっている岡山大学大ジェンダークリニックには、うつになったり、自殺未遂をしたりした経験者も訪れます。子どもの頃からの対応が非常に重要です。

まずは大人が正しい知識を持ちましょう。私たちは自分の体を心の性に合わせたいと望む人に医療を提供していますが、彼らの生きづらさは医療だけでは

解消されません。社会の制度や人々のまなざしが変わる必要があります。

性は男性、女性の二元論では語れません。心の性と体の性が違っていたり、好きになる性が同性だったり両性だったり。その在り方は実に多様です。生まれた時に割り当てられた性ではなく、一人一人が感じる性を大事にできる社会であってほしいと思います。